

海と緑に囲まれた美麗島(うるわしの島)台湾旅行記

海と緑に囲まれた美麗島(うるわしの島)を訪ねる3泊4日の旅に行ってきました。

国号は「中華民国」。人口は約 2290 万人。その殆どは漢民族。公用語は北京方言に基づく普通中国語。

日本とは1時間の時差。成田から3時間 30 分のフライト。 現地通貨はニュー台湾ドルで、交換価値は NT\$ 1 元:3.0 円。 実際現地での買い物、食事を通して日本の物価の 70~80%のイメージでした。

台湾は、歴史上オランダ、スペインなどの植民地として、また 1895 年から 1947 年までの約 50 年間に渡り、日本の植民地であったため、日系企業の工場や百貨店などが多くあり、外資の導入の政策もあり経済的な発展を遂げている。

台湾全体は日本と同様、島国で耕地面積は全土の 30%。台湾市内は緑が多く、殆どの地域は平地の脇が山といった配置となっており、ひとたび雨が降ると一気に海に注がれるといった急こう配の国土である。

【台湾市内】

到着後、まず驚いたのは人の多さと道路を埋めるスクターの多さ。交差点でのスクターは1方向で約50~100台。青信号になると、イナゴの大群のように排気ガスを出して突進。 その光景に圧倒されながらも蒸し暑さと排気ガスのため冷気を求めてビル内に入る。



台湾は、漢字文化圏ということもあり看板や食事のメニュー、また観光地では日本人でも十分に通じるものがあり、安心して過ごせるところだ。ただメニューではわからないことがあるので、その下書いてある英語で判断することもあった。待ち時間を利用して街中の本屋に入って見て驚いたことに、若い女性を相手にした「雑誌」コーナーでは殆どが日本のファッション雑誌。文字でなく、写真で流行のファッションを訴えていた。古今東西、女性の目を引くものは同じである。

また市内では移動手段である、地下鉄とタクシーを利用した。 人ごみは地下も同様であった。

なんでこんなに人がいるのかと思うぐらいであった。こどもの夏休みのこともあるが、とにかく若いエネルギーが圧倒され続けた。地下鉄、タクシーも安く、地下鉄は20~30元。タクシーは60~100元と気楽に乗れるが、自動ドアでないのでもちよと操作に戸惑う。

驚いたのはトイレ。どこのトイレでも「紙」を流すのではなく、備えつけの缶に入れるのだ。どうも、配管が狭い構造なので紙は流れないとのこと。 衛生上、悪いと思われた。

【食事】

当然、台湾料理や北京、上海料理といった中華料理の店が圧倒的に多く、日本人にとってここは食事には困らない。ただ毎回だと飽きてきた。 その中でも、空心菜という日本にはないシャキとした感触の野菜があちこちで出されたが実にうまい。 3日目にスーパーに行って初めてその名前を知った。

1日日夜は、北京ダックを食べに、市内の北京料理屋に行ったが週末にしか出していないとのこと。ちょうどこの時、あまりにも蒸し暑さと排気ガスと到着日ということで疲れていたため食事量は少なかった。 冷気と北

京料理で身体を労り、ホテルに帰ることにした。

2 日目の昼と夜は現地ツアーでの食事。「梅子」と「鼎泰豊」。ともに有名店であり、鼎泰豊は小籠包で有名でありアジアを中心に 50 店出しており、日本にも 11 店あるとのこと。安くてもうまいが、ともにツアー食事ということで、忙しく食事をするこゝろになり落ち着いた雰囲気ではなかった。

3 日目の昼食は、花蓮で郷土台湾料理をいただいた。二人分は多かったが、料理のうまさにごはん以外は食べ、満腹状態になった。その夜は自由行動であった。1 日目の夜と同様、自らが店を探すとあつて、面白さ半分ガイドブックにある店を蒸し暑い中歩いて探す。18 時前、席は空いているが、19 時前後から店は込みだし目当ての場所は列を連ねていた。そのため 3 日目夜はガイドブックにない「薬膳的料理」をいただいた。スープの風味が薬膳であり、ここでもごはん以外はすべて食べた。

また、牛丼の吉野家やモスバーガ、マック、ミスタードーナツ、スターバの店もいたるところにあつた。ガイドの話だと台湾では牛丼は高価で約 1000 円するとのこと。理由は聞けなかつた。また、コンビニは、市内はもちろん駅舎の中、田舎にもあり、セブンイレブン、ファミリーマート、ローソンがあり、若者を中心に利用客が絶えない。ホテルの近くあつた店に入って買い物をしたが、定番の飲料やパン、菓子類の他、おでんもあつたことに驚きであつた(夏にも)。もちろん多機能コピー機や ATM もあり日本と変わらない店作りであつた。

【観光】

チェックイン後の 16 時から市内に出かけた。地下鉄のキップの代わりに販売機から出てきたものは、IC チップが内蔵された非接触のトークン。改札口でかざして入場。そのやり方がわからなく駅員に聞くことになつた。途中乗り換えし、まずは龍山寺。広いとは言えない境内に 5~600 人はいるかと思ひ信者。熱心にお経を音楽のように唱えていた。線香の煙が充満した中、信者は線香を立て、お供えをしていく。写真をとるのも遠慮しなくてはならない雰囲気であり、その光景に圧倒されたひと時であつた。

その後、珍しいお茶を飲み「晋江茶館」
という店に行った。

すでに夕食時であつたが、擂茶をいただく。お茶といつても、材料にピーナツ、ゴマ、茶葉、五穀を自らすり鉢ですり、最後に温かい烏龍茶を入れていただくもの。口にはちょっと合わないが、古くから伝わるお茶のようだ。



2 日目は、^{きゅうぶん}九份と台北市内のツアー観光。台湾北部にある街 九份は昔、金鉱山の町として栄え、現在は古い街並みの観光スポットである。まるで江の島の狭い街並みが山中にあるようなところを歩いているような感じで、両側には芋饅頭を売って

いる店、工芸品など多種多様な店がところ狭しとあつた。その中で、「九份茶館」という落ち着いたお茶を飲ませてくれる店に入り、東方美人茶をいただいた。英国の女王が絶賛した高級茶として有名で、収穫量は少なく、いい値段がした。そこで茶器を 2400 円で購入。涼しくなつたら持ち帰つたお茶を秋風のもとと飲んでみたい。



午後は、衛兵の交代式で有名な忠烈祠に行く。台湾で兵役が義務とのこと。陸、空、海軍の3軍の優秀な兵隊が交代で衛兵している。台湾では3か所で衛兵が1時間ごとに交代式をやっているとのこと。但し、現在は観光客相手のためにやっていると聞いた。1時間微動だにしない姿には圧巻。

次は故宮博物館。ここは世界四大博物館の一つとして有名。蒋介石が本土からもって来た65万点もの至宝があるとのこと。そのうち、約6000点が展示されていた。

輝石を加工して「翠玉白菜」は百才生きることを念じて作られたもので一級品。彫刻や書画など見ごたえのある展示物であった。大陸からの多くの観光客で館内はごった返していた。

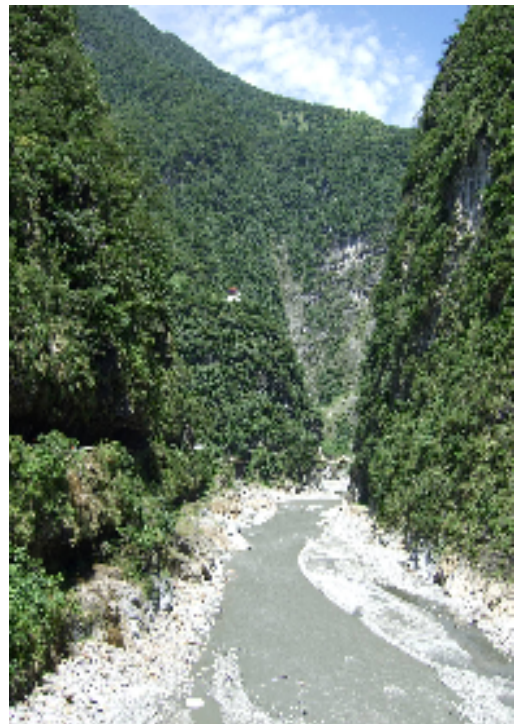
その後、足ツボマッサージに行く。足裏のつぼの感触と痛みで内臓の悪い部分がわかるとのこと。私の場合、肝臓(脂肪肝)と耳、目、腰が悪いのではと言われ、すべてあたり。効用よろしく、翌日は快適。また、ここでは珍しく漢方の薬を買うように迫られ、私は「牛樟芝」、妻は「鹿茸」を購入することにした。私は現在でも漢方を服用しており、予防薬としての漢方のありがたさを知っていたので、牛樟芝は台湾のみで発見されているということで購入してきた。日本での買い物より安いものであったが、ひと月5千円はするものである。

3日目は、台湾東部の街、花蓮と太魯閣溪谷に向けて空路飛び立った。80人乗りの飛行機には日本人は我々のみで、ほとんどは商用の人のよう。東京でいう羽田と同様の市内の松山空港から40分。

現地では65歳の元バスの運転手が日本語でガイドしてくれた。流暢とは言えないものの、一生懸命に花や食べ物、そして土地のことを話してくれた印象の残る人であった。

太魯閣溪谷は、大理石でできた山の溪谷を20Km車で縫うよう走った。とにかく我々が走った部分は一部のように、それでも山一面が大理石で覆われており、自然のすごさを味わうことができた。地元では採掘する場所を決めて観光資源として保存しているとのこと。日本でいう国立公園に指定。夏ということで閑散期はどこに行くにもスムーズであった。

花蓮は冬には日本各地から空港に直接乗り込んでいるようで、日本人で賑わっていると聞いた。また、先住民のアミ族(14万人)の踊りを見学した。日帰り旅行であり、台北市内には帰りは自強号という特急で帰路についた。駅の待合室や車内には子供が多く、元気な声を飛び交っていた。我々の席は42、44番とキップに書いてあり、別々の席になるかと思ったが、偶数席と奇数席はそれぞれ隣り合わせとなっていた。そして3時間かけ台北駅到着。ローカルに雰囲気浸るのも旅の魅力であった。



【日程】

7月27日(火)～30日(金) 3泊4日 台湾(中華民国) 首都^{たいべい}台北市内めぐりと^{かれん}花蓮
宿泊先 → 国王大飯店(Emperor Hotel) 台北市南京東路一段118号 886-2-2581-1111

エコノミーホテルで内装やバスタイレは観光客向けでなく、ビジネス用。但し、フロントや小店の人は日本語で温かく話してくれることが印象的。このホテルは殆ど日本人向けで新聞は日本のスポーツ新聞もあった。(日経、読売も)

現地旅行会社→三普^{さんぷう}旅行社有限公司 (SANPU TRAVEL SERVICE Co.ltd) 02-2568-2288

【行程】

7月 27 日(火) 自宅 5:45 出発 成田駐車場 7:20 (スカイパーキング)

成田発 9:40 CI107 便⇒ 台湾 桃園国際空港着 12:10 (現地時間)

現地スタッフ出迎え (三普旅行社) 空港からバス 市内約 1h。 DFS 経由でホテルチェックイン
午後 二人で台北市内めぐり (16:00～ 地下鉄利用 約 20～30 元)

龍山寺 (台湾最古の名刹 p.71)、茶藝館 (晋江茶館 P.89)、(京劇鑑賞→指定日ありで今回はダメ)
夕食 北平西来順 (北京料理) タクシーで移動 ホテル着 20:00

28 日(水) 九份^{きゅうふん}と台北市内 現地 1 日ツアー周遊 (8:00～20:00) 約 20 名

ホテルに迎え(バスで移動)

9:15～10:45 九份^{きゅうふん}自由散策 その後台湾市内にバスで戻る

昼食 梅子(台湾料理海鮮)、忠烈祠(衛兵交替式)～故宮博物館(世界 4 大博物館 1.5h)～
足ツボ案内(900 元/人 40 分 滋和堂)

夕方 鼎泰豊夕食、士林夜市の散策。毎晚上野アメヤ横丁の年末版の込み具合のよう。

地下鉄でホテル迄帰る。 ホテル着 21:00 頃

29 日(木) 太魯閣溪谷と先住民アミ族(花蓮)の踊り 現地ツアー 1 日周遊 (8:00～19:00)

8:00 ホテル出発 (我々 2 名のみツアー)

松山空港 08:55→花蓮空港 10:10 へ移動 (約 40 分)

太魯閣溪谷 約 1.5H

12:30 前後 台湾郷土料理昼食

大理石工場見学(大理石から石製の家具、宝石の加工。すばらしが興味薄)

近くの先住民のアミ族の踊り鑑賞。ちょっと観光化しすぎ。

花蓮駅 16:00→台北駅 19:02 特急「自強号」で移動 (約 3H)

夕食に薬膳食事(500 元/二人)をホテルの近くで頂く。 21:00 ホテル着

30 日(金)

現地スタッフホテル迎え 5:40 頃 → 空港 7:20 頃 (各ホテルから約 40 名集まる)

台湾 桃園国際空港 08:55 発 CI100 便⇒ 成田 13:05 到着

自宅 16:00 着。

【費用】 2 名分 合計 251,600 円

・フライト (HIS 青葉台) 108,600 円

・現地周遊(ホテル代込み) 53,000 円 (スタンダードクラス + 朝食3回、昼食 1 回、夕食 1 回)

2 日目 上記ツアー込み、3 日目 34,000 円 (鉄道+飛行機+昼食代込み)

・食事代、お土産代 45,000 円 (1、3 日目夕食、+ お土産代 + マッサージ + 地下鉄・タクシー他)

・交通費 11,000 円 (成田駐車場 4300 円+高速代 5000 円+ガソリン代)

【旅行代理店】 フライトのみ→HIS 青葉台支店 045-989-2321

現地ツアー→三普旅行社 日本 03-5833-2277(神田佐久間町 3-37 第二星野ビル)